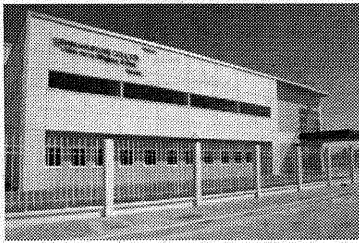


タイのメッキ工場操業



来月操業するタイ工場

サイアム・ヒキフネには全自動メッキライン、排水設備など約2億円を投じて体制を整えた。資本金は約1億円。社長には石川社長が就任した。ヒキフネから現地責任者と技能育成責任者を派遣

ヒキフネ 精度・技能を横展開 日系向け 現地調達増に対応

ヒキフネ（東京都葛飾区、石川英孝社長、03・3696・1981）は、タイ・チョンブリー県のアマタナコン工業団地に新設した100%出資のメッキ事業子会社「サイアム・ヒキフネ」を、6月に操業を始める。日系メーカーの現地調達増に対応するとともに、震災などのリスク分散につなげる。まずアルミ材への無電解メッキやニッケルメッキ、三価クロムメッキを手がける。初年度に売上高約1億円を見込む。

し、従業員30人でスタートする。新工場は敷地面積2500平方メートル、建物面積1800平方メートル。生産ラインを拡張し、亜鉛ダイカストへのメッキも手がける方針。タイには自動車、電機メーカーが進出して

ーが成長途上にあるのが実情。このため、石川社長は「精度と技能のノウハウをタイ工場に横展開し、あらゆる産業に対応したい」としている。ヒキフネは金型からメッキ加工までを一貫受注している。また精密部品への金メッキ、銀メッキの受注増に取り組んでおり、タイ事業と合わせて業容を拡大する。